# 海外派遣事業報告書 2018

## 哈爾浜市・北京市

公益社団法人

北海道国際交流・協力総合センター

# 目　次

研修事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

海外派遣研修団名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

アルバム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

参加者レポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

行動記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０

# 海外派遣事業報告書 2018

## 哈爾浜市・北京市

1　趣　旨

北海道の青年を海外（中国）に派遣し、視察や関係者との交流・意見交換などを通じて、本道との文化等の違いや地域社会のあり方などについて学ぶとともに、異文化や国際交流等に対する理解を深め、国際的な視点に立って地域づくりを進める人材を養成し、地域の国際化の促進に資する。

2　訪問国

中国（哈爾浜市、北京市）

3　派遣対象者

北海道の青年（20～45歳程度）

4　研修内容

HIECC と中国黒竜江省人民政府外事弁公室との間で締結している青年交流協定に基づき、北海道の青年による交流団を中国に派遣し、両地域の青年同士による交流を行う。

交流テーマは公募により「音楽」に決定し、哈爾浜音楽学院との交流演奏会の開催をはじめ、音楽関係施設の視察見学などを実施。

5　派遣計画

・派遣人員　：9名（団長1名、団員7名（監督者1名、学生6名）、総務）

・派遣期間　：平成30年9月3日（月）～9月8日（土）　6日間

6　参加者負担金

5万円

7　旅行主催

株式会社日本旅行北海道

# 海外派遣研修団員名簿

（五十音順）

| No | 氏　　名 | 性別 | 職　業 | 職　場　等 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 団長 | 安原（やすはら）　達也（たつや） | 男 | 団体職員 | HIECC 事務局長 | |
| 団員 | 谷本（たにもと）　聡子（さとこ） | 女 | 大学教授 | 札幌大谷大学教授 | 指導監督 |
| 〃 | 三本木（さんぼんぎ）　力哉（りきや） | 男 | 大学生 | 札幌大谷大学 | ピアノ専攻 |
| 〃 | 信濃（しなの）　りかこ | 女 | 大学生 | 札幌大谷大学 | ピアノ専攻 |
| 〃 | 代田（しろた）　将也（まさや） | 男 | 大学生 | 札幌大谷大学 | トロンボーン専攻 |
| 〃 | 田中（たなか）　雪奈（ゆきな） | 女 | 大学生 | 札幌大谷大学 | フルート専攻 |
| 〃 | 千葉（ちば）　悠也（ゆうや） | 男 | 大学生 | 札幌大谷大学 | ピアノ専攻 |
| 〃 | 藤村（ふじむら）　美里（みさと） | 女 | 大学生 | 札幌大谷大学 | ピアノ専攻 |
| 総務 | 金子（かねこ）　徳之（のりゆき） | 男 | 団体職員 | HIECC 管理部企画調整課長 | |

# 派遣スケジュール

**【派遣国】哈爾浜市、北京市**

| 日次 | 月日・曜日 | 都市名 | 時　間 | 交通機関 | 内　　容 | 宿泊地 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 9月3日<br>(月) | 新千歳空港<br>→北京<br>北京<br>→ハルビン | 13:50<br>17:05<br>20:10<br>22:10 | CA170<br><br>CA1639 | 新千歳空港より北京経由で<br>ハルビンへ | ハルビン<br>(ニューパリスホテル) |
| 2 | 9月4日<br>(火) | ハルビン | 9:00<br>午前<br>午後<br>夜 | 専用車 | ホテル出発<br>阿城金上京歴史文化博物館<br>中央大街見学<br>黒龍江省外事弁主催夕食会 | ハルビン<br>(同　上) |
| 3 | 9月5日<br>(水) | ハルビン | 9:30<br>午前<br>15:00<br><br>18:30<br>20:00 | 専用車 | ホテル出発<br>東北虎園見学<br>ハルビン音楽学院到着<br>リハーサル<br>交流演奏会<br>青年交流夕食会 | ハルビン<br>(同　上) |
| 4 | 9月6日<br>(木) | ハルビン<br>→北京 | 9:00<br>11:40<br>13:50<br>午後 | CA1644 | ホテル出発<br>北京へ移動<br><br>市内視察（万里の長城) | 北　京<br>(ｼﾞｬﾝｸﾞｵﾎｯﾄｽﾌﾟﾘﾝｸﾞﾎﾃﾙ) |
| 5 | 9月7日<br>(金) | | 9:00<br>10:00<br>午後 | 専用車 | 中国教育国際交流協会訪問<br>中央音楽学院訪問<br>市内視察（天安門広場、故宮) | 北　京<br>(　同　上　) |
| 6 | 9月8日<br>(土) | 北京<br>→新千歳空港 | 8:00<br>12:50 | CA169 | 直行便にて帰路へ | ― |

阿城区にある金上京歴史博物館を見学し、金王朝の歴史について学んだ。

哈爾浜のメインストリートである中央大街を散策

# ハルビン市

# 9月3日～9月5日

【訪問先】

〇9月4日（火）

市内視察（阿城金上京歴史文化博物館、中央大街）

黒竜江省外事弁公室主催夕食会

〇9月5日（水）

市内視察（東北虎園）

哈爾浜音楽学院訪問（表敬、交流演奏会、交流会）

黒竜江省外事弁主催夕食会。

呉永剛（朝韓処処長）から熱烈な歓迎を受けた。

東北虎園を見学。

園内には約1,000頭の虎がいるとのこと。

哈爾浜音楽学院を訪問。　陶亜兵副院長はじめ昨年の来道メンバーも交え歓迎をいただいた。

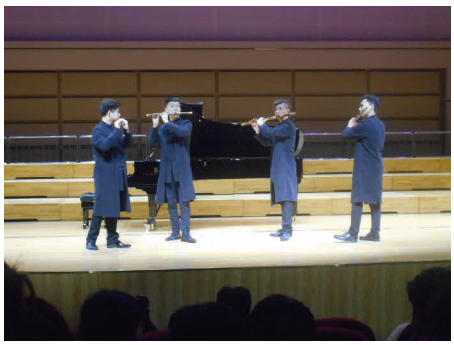
## 交流演奏会

【日時】2018年9月5日（水）18:30～19:30

【場所】哈爾浜音楽学院ホール

【演奏】北海道（団員）6曲、哈爾浜音楽学院6曲

【来場者】約500名



# 北京市
# 9月6日～9月8日

【訪問先】

○9月6日（木）

万里の長城見学

○9月7日（金）

中国教育国際交流協会、中央音楽学院訪問、

市内視察（天安門見学、故宮博物館）

京劇鑑賞

哈爾浜～北京到着後、万里の長城を見学

中国教育国際交流協会を表敬訪問。

中央音楽学院にてピアノ授業を見学

同音楽学院にてフルオーケストラによるリハーサルを見学

天安門広場にて

## 海外派遣事業を終えて

海外派遣団　団長
北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）事務局長　安原　達也

平成 30 年度の海外派遣事業については、当センターが中国黒竜江省人民政府外事弁公室と締結している青年交流協定に基づく派遣とし、「音楽交流」をテーマに札幌大谷大学の谷本聡子教授とともに 6 名の学生を 9 月 3 日（月）から 8 日（土）までの 6 日間、黒竜江省の省都哈爾浜市及び中国首都の北京市に派遣することとした。

最初の訪問地である哈爾浜では、昨年、北海道で交流した際に受け入れた一行が所属する哈爾浜音楽学院を訪問し、昨年に引き続き、両地域の学生による交流演奏会を開催した。

同学院では、陶亜兵副院長をはじめ、趙傑学生処長、張輝外事処長など昨年訪問団の一員として来道された関係者ほか、多くの学生から大歓迎を受けた。

創立 3 年目の新設校でもある音楽学院の、新しく立派なコンサートホールで開催された交流演奏会は、学生や一般市民など約 500 名の聴衆を得て、北海道側団員、哈爾浜側教師・学生による計 12 曲の演奏で会場は大いに盛り上がるなど、成功裡に終了した。演奏会後には、院内にて青年交流会が催されたが、学生同士は早速 SNS でアドレスを交換するなど友好を育み交流を約束する姿も多くみられた。今後、彼らが架け橋となって、両地域の音楽・文化・芸術といった交流の輪が、一層広がることを期待したい。

次いで訪れた北京では、中国教育国際交流協会と中央音楽学院を訪問した。

中国教育国際交流協会では、李春生常務理事の歓迎を受け、日中の交流が様々な分野でますます盛んになることを希望されるとともに、特に留学生など学生同士の交流に大きな関心と期待を寄せていただいた。

中央音楽学院は、中国建国時の 1950 年に設立した中国で最も歴史のある世界有数の音楽学院で、生徒数は学生 1,500 人、研究生 800 人。作曲・声楽・ピアノの 3 分野に力を入れており、特にピアノ分野は中国国内で最も地位が高いとされており、政府の出資によりピアノ専用ホールなども有しているとのこと。運よくフルオーケストラによる歌劇のリハーサルを見学した団員一同は、そのレベルの高さに驚きと感動を隠せないようであった。

今回の団員は皆中国への訪問が初めてということもあり、日頃から目にするニュース等の情報から、事前研修の際には少なからず不安を滲ませていたが、哈爾浜音楽学院の学生との交流をはじめ、訪問した先々で出合った中国の人々や関係者とのコミュニケーション、食や歴史・観光施設などの本物の文化に触れたことにより、中国に対する印象も大きく変わったことと思う。若い学生の皆さんには一面的な評価に捕らわれず、広い視点でグローバルな世界を見ることができる人材として、今後、音楽をはじめそれぞれの分野で活躍してくれることを願っている。

## 初めての海外で

三本木　力哉

自分は今回の交流演奏会が初めての海外だった。不安なことがあったがこうして無事に日本に戻って来られたことが一番良かったと思う。もともと行くまでの中国は勝手なイメージだがあまり良いイメージがなく、良いニュースもあまり聞いたことがなかったので不安が多くあった。でも実際に行って見ると、目にする景色や空気、人の対応も想像していたものとは違い、全ての時間がとても貴重で大切なものとなった。

**・ハルビン音楽学院との交流演奏会**

中国へ出発する前に行われた事前研修会の時、初めて海外で演奏させていただくので新たな環境、そして新しい空気を感じて精一杯演奏したいということを目標にさせていただいた。

事前研修会で中国について学んだ。

まず中国の地に降り立つと、やはり建物の大きさだったり景色が日本で見るものとは全く違い少し戸惑いつつもワクワクしていた。中国に着いてから演奏会の日までは勿論中国料理をいただいたのだが、自分が考えていた中華というイメージと実際に出てくる中華料理の見た目、香りや味が違い驚いた。

また味の好みも分かれそうなものが多くあった。

中国での生活が少し慣れてきたところで、ハルビン音楽学院の学生との交流演奏会だった。会場は収容人数が千人ほどの大きなホールで、自分の音が聴衆にどう聴こえどう響くのかドキドキな反面このような大きなホールで演奏できる機会がなかったのでワクワクしていた。リハーサルではこんなに気持ち良く演奏することができるのかと思うくらい良い響きでうまく調整ができ良かった。

いざ本番となると緊張はしたが、その緊張を吹き飛ばしてくれるくらいの聴衆と大きな拍手で迎え入れてくれてのびのびと演奏することができた。演奏中少し話し声が聞こえ気になったがそれも緊張が解れた理由でもあると思う。演奏が終わると演奏前を超える大きな拍手、そしてブラボーと言ってくださる方もいてとても嬉しかったし、自分が音楽を続けてきて良かったと心から思える瞬間だった。自分の演奏後はホールの中で演奏を聴いたが、ハルビンの音楽学院の学生は日本とは違う民族色の強い曲を披露していて会場もとても盛り上がっていたので、今後このような国際交流があれば選曲も大事にしたいなと思った。演奏会終演後に行われた交流会では、ハルビン音楽学院の学生と食事を取りながらコミュニケーションを取ることもできた。英語が苦手でなんとなくのニュアンスで伝えようと頑張ったが、相手が理解しようとしてくれたし通じ合えたときにコミュニケーションがとても楽しいと感じ

た。また交流会が終わって日本に帰るまでWeChat(日本のLINE)というアプリでまた来年会おうなどとやり取りができたのも良かった。

**・言葉について**

今回海外に足を踏み入れて一番感じたことは、どの国でも共通で英語が喋れるということだ。実際にホテルで両替に困ったことがあったときなど、質問は英語だった。そしてわかりそうな単語で理解してくれると思っていたが、全く通じず困惑した。そして自分の英語のできなさに落ち込んだ。今後も海外に行くこと、海外の先生にレッスンを受けること、海外への留学を考えているので時間をうまく使ってしっかり勉強をして実践できる場を作り積極的に話していけるようになりたい。

**・実際に中国の文化を感じてみて**

普段行くことの少ない博物館に行ったり、有名な天安門広場や万里の長城に行くことができた。また京劇鑑賞もあり、日本と演奏を聴くときの姿勢が違ったり、演技も初めて見るものだったので新鮮な気持ちで見ることができた。

一番印象に残っているのは万里の長城に登ったことで、かなり長く坂も急な場所があり体力が奪われたが、登りきった時の空気が美味しく風も気持ち良く達成感があった。生きている中で万里の長城に行けることもあまりないと思うので、貴重な経験となった。

最後に、今回中国に行ったことで演奏するときの聴き方が変わったことは勿論のこと一緒に行った仲間達や引率の谷本先生とHIECCの方と過ごす中で、出会いの大切さを改めて感じた。このような素晴らしい機会をいただけたことに感謝し、これからも音楽に真摯に向き合って努力していきたい。

万里の長城にて

## 中国の文化に触れて

信濃　りかこ

2018 年 9 月 3 日から 9 月 8 日までの 6 日間で北海道海外研修派遣事業の研修団員として中国へ訪れた。研修団員は HIECC の安原団長、そして大谷大学教授の谷本先生、学生は大谷大学の演奏クラス、研究生の中から選ばれた。

この研修で魅力的に感じたところは、研修団員の中に様々な楽器の専攻生が含まれているということ。普段はほとんどピアノ科専攻の学生とのみ交流をしているため、色々な場面で刺激をもらうことができた。そして、その刺激は日本の学生同士だけのものではなく、中国の学生との交流を通して更に深く学び合えた。私たちの専攻としている音楽を同じく学んでいる海外の同世代達との交流は素晴らしい時間だった。そして音楽を共有できたこと、中国の方々に見守られながら演奏できたことを幸せに思う。
大谷大学の生徒と教授である谷本先生は初めての中国で、中には初めての海外という学生もおりとても興味深い経験となった。

管楽器専攻の学生やピアノ専攻の先輩とは交流する機会が少なかったため、はじめは 6 日間を楽しく乗り切れるかという心配もあったが、長いフライトとバス移動や食事を通して一日目にして打ち解ける事が出来た。そしてホテル到着後、素晴らしい内装に感激し学生同士で部屋を行き来した。それは最終日まで続いた。

次の日からは、阿城金上京歴史文化博物館や東北虎園を見学し、中央大街を見学した。博物館では日本語のガイドとともに中国の歴史について学んだ。

虎園では、普段見ることのない動物を間近で見ることができた。虎の赤ちゃんを見たり、バスに乗って外の世界を自由に歩く虎を見たり、檻の中では綺麗なホワイトタイガーやジャガー、ヒョウなどが暮らしていた。生きた餌を見るというのはかなりショッキングなことではあったが、貴重な体験であった。

見学バスに乗って虎を間近で観察

4 日目には万里の長城を登った。男坂と女坂というコースがあり、女坂のコースから頂上を目指したが先が見えずリタイア。膝が笑っていた。

そして気になる食事事情だが、日本で食べる中華料理とは味付けや調理法が違うところもあったが、とても美味しくいただく事が出来た。特に餃子の具の種類の豊富さには驚いた。きっと一生食べることのない牛の内臓もいただいた。一番美味しかったのは白酒。

一番楽しみにしていたこの研修のメインであるハルビン音楽学院には、3 日目の 9 月 5 日に訪れた。外装の壮大さ、土地の広さや素敵なつくりのハルビン音楽学院に魅了された。時間が決まっていない自由なスタイルのリハーサルには驚いた。日本のように時間通りの行動も良いが私には中国のフリーダムなスタイルが合っていたのかもしれない。

初めての中国での演奏。その瞬間がとても待ち遠しかった。

3 日に中国へ移動してからは練習場所も練習時間も確保することが出来ず、脳でイメージしてから毎晩就寝した。リハーサル時間も 10 分程度、指が温まるか温まらないか微妙な時間だ。3 日丸々ピアノに触れないまま演奏会を迎えるというのはなかなかの恐怖感があった。

そして私の出番になると暖かい拍手がステージ上に鳴り響いた。椅子に座ろうとピアノに目を向けたところ、譜面台がそのままついていたのだ。せっかくの素晴らしいホールでの貴重な演奏会だったため、譜面台による響きの影響を考え「譜面台を外してください」と私なりのジェスチャーと英単語で伝えたが上手く伝わらなく、お互いはてなマークが浮かんでいた。そうしていると客席から中国のお客様がステージマネージャーに私が伝えたかった事を伝えてくれたのだ。それを見て心が暖かくなり、気がついたら緊張感もなくなっていた。

中国の方々はとても楽しんで聴いてくれていると演奏しながら感じた。日本の演奏会では、良い表現をすれば聴衆のマナーが良い。正直な表現をすると固くなりすぎていて、演奏側も固くなってしまう。ここでの演奏会は聴衆との一体化を感じて、気持ちよく演奏することができた。

あの快感は今でも忘れられなく、また中国で演奏をするためにもっと勉強しようと日々研究を続けている。

万里の長城にて

## 海外派遣事業から学んだこと

代田　将也

私は 9 月 3 日から 9 月 8 日にかけて、海外派遣事業で北海道青年代表団として中国へと渡った。その中で感じた様々な体験や考えたことを語りたいと思う。

9 月 3 日、私の心は不安や期待感、色々なものが混じりあっていた。飛行機の荷物の事や食べ物の事、それより大きかったのは楽器の事である。私は訳あってトロンボーンを中国で借りる事になっていたが、当日までそれが新しいのか古いのか、どのメーカーなのかすら分からなかったからだ。

そんな不安の仲で到着の翌日、私達は阿城金上京歴史文化博物館へと足を運んだ。ここでは、中国の文化や歴史、実物の出土品等、滅多に見られないものが多数展示してあり、歴史文化に触れるとてもいい機会となった。それから中央大街へとバスで向かった。

中央大街は、さすが観光地というような良い景観に溢れた素晴らしい場所だった。ショッピングセンターやお土産屋、料理店が立ち並んでおり、どこを見ても人だらけで活気に溢れた場所だった。昼食は水餃子のお店へと入ったのだが、初めて食べた本場の水餃子は、お代わりをしても足りないほど美味しかった。

9 月 5 日演奏会当日は、本番の前に東北虎園を見学した。そこは色々な種類の虎が沢山飼育されており、見たことがないほどの虎を間近で見る貴重な体験だった。園内を回るのは窓に檻の着いた、専用のミニバスのような車で、どちらかというと虎よりも自分達が見せ物に近いもののようにも思えた。餌の種類も豊富で、ただの肉や生きた鶏等、生きた餌では本物の狩りを見ることもできて、自然ではこのようにして生きているということがよく分かった。

昼食を終えた後、いよいよハルビン音楽学院へと到着した。表敬等を終え、すぐにリハーサルを行うこととした。日本では静かに鑑賞することが演奏会のマナーで、よく耳を傾けるというような事が当たり前のようにあるが、中国ではさらに音楽の種類によって観客も楽しみながら聴いていて、とても良い雰囲気だと感じた。私も演奏後に暖かい拍手で迎えられ、感謝の気持ちでいっぱいになった。終演後はみんなで食事会を開き、WeChat によるメッセージの交換や翻訳アプリによる会話も楽しむことが出来、緊張や期待をしているのはハルビンの学生も同じということがわかり、楽しんで参加することが出来た。その後、ホテルでの反省会では谷本先生より一人一人への大事な話があり、これからの頑張りや広がった世界へのチャレンジ等、新しい目標も見つかったいい機会だったように感じる。

9 月 6 日には北京に移動し、最初に万里の長城へ向かった。男坂と女坂があったが、女坂でも十分大変な道のりだった。そんな中、谷本先生も若い学生と一緒にかなり上まで登ったので、かなりパワフルな力強さを感じた。帰ってくる頃には膝も笑っており、下りの辛さが身に染みていた。夕食では久しぶりの白米を食べることが出来、その美味しさに少し涙を流してしまうほどだった(ここで日本に帰りたいという思いが一気に湧き上がった。)。

ホテルは北京建国温泉酒店という場所で、内装は南国リゾートのような自然味溢れるイメージで、とても楽しめた。近くにコンビニもあり、そこの店員さんが優しく、温かい気持ちになった。

9月7日は最初に中国教育国際交流協会へと向かい、挨拶を行った。それから北京の中央音楽学院へと向かい、施設、レッスン、授業を見学することが出来た。その時授業ではトゥーランドットの稽古をやっていて、みんな聴きながら感動していた。昼食では様々な味の水餃子を食べ、味の変化に驚きながら沢山味わった。

それから天安門を観光し、中学校の授業で習った景色が目の前に広がっていることに感動したのと同時に、実際に目で見てわかった奥行きや高さ、広さに何度も驚かされた。

中央音楽学院の授業を見学

その後夕食を終え、京劇の鑑賞を行った。アクロバットな演技、歌舞伎とはまた違った音楽、派手な衣装等、中国の文化を取り入れた面白味があり、興味深かった。観客は観光の方も多く、様々な国の言葉が飛び交い、スクリーンには中国語の訳が映し出されていたのでとても助かった。

その後はホテルに戻ったが、最後の夜ということでみんなで宴会を開き、夜遅くまで語り合った。

中国最後の9月8日。この日は朝が早く、5時にはホテルを出発する事もあって、みんな寝不足と戦っていた。みんなが戦士であった。やはり疲れもあったのか、移動中、飛行機の中ではほとんどの人が眠っていた。北海道では大きな地震があった事もあり、ちゃんと到着するか不安だったが、最後まで順調に進んだのでとても良かった。新千歳空港に到着し解散した後、私は千葉くん、三本木くんとともに豚丼を食べに行ったのだが、中国では味わえなかったタレの味、甘さに、そして味噌汁の味噌から感じる味の奥深さに、感動の涙を堪えながらの食事だった。

今回、視野を広げて中国での経験を通し、私自身もっと広い視野で見ていくことが必要なんだなと感じた。さらには、今まで必要無いと感じていた英語にも共通言語としての便利さを再確認させられたし、コミュニケーションにどれだけの重要さがあるかと言うのを感じた。これから先はどうなるかは分からないが、ひとつに絞るのではなく大きな視点をもって様々な事に取り組んでいきたいと感じた。

## 中国へ行って学んだこと

田中　雪奈

**・食事や文化について**

私が中国に行って主に行動や文化で日本と違うなと感じた点が多々ありました。

まず食事です。パッと見ればすぐにわかるのが回転テーブルです。二段構造になっており、下の段には各々の食器など。上の段には作られた料理が乗せられ、そちらのボードが回転するという仕組みである。想像するならばたって動かなくても良いバイキング形式という感じであろう。我ながら良いたとえだと思う。

回転テーブルに盛りつけられた料理

出てくる料理も様々で餃子は餃子でも日本とは味も見た目も違うものが出てきた。餃子は餡の種類が豊富であり、皮も何種類かあるようだ。私が一番驚いた料理は哈爾賓音楽学院の学生と食事をしたときに食べた牛の腸だった。現地の人は普通に食べていたが私には少々受け付けられなかった 申し訳ない。

私が食事に関してすごく良い文化だなと感じたことは盛りつけをしてあげることがマナーということだ。全然知らない私に笑顔でよそってくれる。これは良い文化だなと思いました。もうひとつ、乾杯をする時はグラスをテーブルのカンカンと当てる動作です。これで乾杯の意になるそうで、直接乾杯をしに行く際には敬意を持って相手のグラスの底に自分のグラスの口を当てるそうだ。へりくだりは日本だけではないのだなと私は感じた。

**・演奏会で感じた音楽と人とについて**

この交流会の本題となる哈爾賓音楽学院での演奏会だが私にとってとても貴重なものになったという事は言いうまでもない。専用車で向かい着いたとき、まず「おお～～～～！！」とつい感嘆詞が出たが私だけではなくみんな出ていた。それくらいまず敷地が広い！そしてアンティーク調の装飾が施された建物たち。これはおお、と言ってしまっても仕方ない。ちなみに自分の出番を待っている時に窓から学院の正面を見てみたのだが、ライトアップがされていてすぐカメラにおさめた。さて挨拶も終わり、リハーサルのために楽器を持ってホールに足を運んだ。まず踏み入れてホールを見渡す。大きさは予期に長く７００比と程度の客が入るかと思われ、大きめのホールだろうと思った。響きも残りすぎず程良く響く、そんなホールだった。

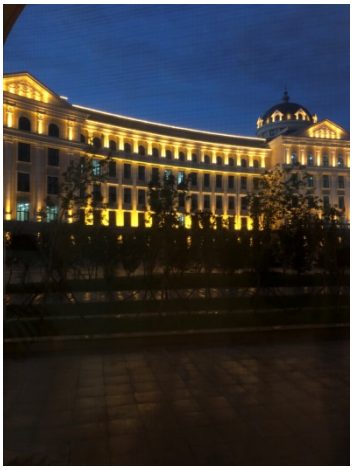
プログラムが地味に凝っていることと日本語が無く、中国語オンリー（当たり前だが）のプログラムをみたのは初めてだったので妙な感動を覚えた。そうしているうちに本番が始まり私は裏で聴けないかとどこかスペースを探していた。するとびっくりすることにド

アが解放したままになっており外へ丸聞こえ状態である。響き的にも外の声が入ってしまうこともどうかと思うところもあったが。それもそれで中国ということにしよう（笑）

**・終わりに！**

よくも悪くも日本とは異なる点がたくさんあった中国だったが一言で言うと楽しかった！ということになる！！と私は思う！！アジア系の他国には行ったことが無かったためいろんなことが新鮮だった。中国には一回は言ってみたかったので演奏する機会もいただきながら観光もしておいしい食事もさせていただきさらには虎まで見ることができて私は中国に思い残すことは無いと思う。

そして案内をしてくれ、スケジュールも立ててくれサポートをしてくれた HIECC の皆さんには本当に感謝の気持ちしかありません。その後の演奏会にも足を運んでいただき本当にすてきなお方と出会えたなと思います。また何か機会があえばまた参加してみたいと思います。



哈爾浜音楽学院のライトアップされた外観

## 知るということ

千葉　悠也

**・悠久の歴史**

私が今回、中国での交流事業に参加しようと思ったのは、自分の名前に関係が深いことも理由のひとつであった。私が生まれた時、ちょうど中国の南京大学に留学していたおじが、私の両親と一緒に考えてくれたのが、「悠」という文字だった。遥か彼方、時間的、空間的に緩やかにゆったりと流れる中国悠久の歴史にちなんだ名前だそうで、その由来となった国を自分の目で見、肌で感じてみたいと思い志願した。

実際、哈爾濱中央大街の建物はロシア風、ヨーロッパ風の建築様式が多く、しかし表記は中国語で不思議な感覚に陥った。なかでも一番悠久の歴史を感じられたのはやはり最後に北京で訪れた万里の長城だ。あんなに長い城壁を築きあげるのにどれだけの時、労力が必要だったことだろう。登ってみて中国の広大な景色を眺めることができてとても感動した。実際に訪れてみて色々な歴史を感じられ、名前の由来を実感できた瞬間だった。悠々と伸び伸びと生きていきたい、私はそう感じた。

**・交流演奏会**

３日目、哈爾賓音楽学院との交流演奏会に参加した。日本の演奏会とは違いタイムスケジュール通りには行われず少々不安なところもあったが、私にとってはかえってそれがアットホームな心地よい雰囲気となり、伸び伸びと演奏することができた。舞台袖のステージマネージャーさんとも和やかに会話することができ、気持ちよくステージに送り出してもらえることができた。

演奏会では、中国の伝統楽器の二胡の演奏を聴くことできた。私は以前に札幌で二胡の演奏を聴いたことがあるが、やはり本場の演奏は音の深みを体で感じることができ、とても感動した。演奏会後の交流会の際、同じテーブルにいた女性が二胡奏者の方でお話をする機会を得ることができたため英語でコミュニケーションを試みた。彼女は日本が好きで何度か来日したことがあるとわかり嬉しい気持ちになった。また、日本語を学んで日本語で話しかけてくれる学生も何人かいた。やはり語学を学ぶということは大切なことであり、私も中国語を学んでから訪れていたらもっと深く交流ができただろうと思うと悔しい気持ちになった。

国籍や言語は違っても音楽を通して交流出来る場に参加させていただき、とても貴重な体験となった。

哈爾浜音楽学院との交流会で出合った仲間と

**・伝統芸能「京劇」**

また、私は舞台鑑賞を趣味としているので中国の古典演劇である京劇に興味があり、今回観劇する機会をいただけて大変嬉しかった。京劇は英語で“Beijing Opera” と訳されているように歌、せりふ、立ち回りなどを組み合わせ、音楽と舞踊を融合させた総合的な演劇だ。歌舞伎とは違い女優も出演し、中国雑技団を彷彿させるアクロバティックな動きも見受けられた。今まで触れたことのないジャンルの舞台を観ることができとても貴重な経験となった。

**・まとめ**

私は、このたびの交流事業への参加にあたり、「文化や歴史に触れる」という目標の他に「食わず嫌いをしない」という目標も立てた。その理由は、実際に見て触れて、五感で感じることにより広がる世界がある、知らないということで生まれる壁。知ることによって乗り越えれば、壁の向こうには新たな出会いと発見があるからだ。先入観や偏見を捨て本来の姿を見ることはとても大事であり、実際に中国の方々と接してみて暖かみが感じられたと私は思う。また、中国という国に行って自国との違いを感じたこととして、日本は時間に追われすぎて気持ちに余裕がなくなっている点に気づいた。

中国には香港と上海にディズニーランド、2019 年には北京にユニバーサルスタジオができる。テーマパーク好きの私にとっては大変魅力的な国だ。近いうちにまた訪ねるとしよう。今度はもっと中国語を学んで。

中央音楽学院（北京）にて

## 海外派遣事業を終えて

藤村　美里

今回、中国のハルビン音楽院での演奏会や交流、北京視察などの派遣事業に参加することができた。
大学でピアノを学んでいる状況で、行ってみたい国を考えるとヨーロッパの国ばかり思いつく。大学での海外研修でハンガリー、オーストリア、ドイツには行ったことがあったが、アジア圏の他国には行ったことがなく、正直行ってみたいという願望もなかった。日本では良くないニュースでばかり目にしている中国。行くまではかなりの不安、不信感を持っていたのだが、実際に足を運び訪れたことで中国の悪いイメージは払拭され、予想を遥かに超えた充実した時間を送ることができ、貴重な経験となった。

### 《ハルビン音楽院の学生との交流会を通じて》

日本の学生で中国語を学んでいる人はあまり多くない印象があるが、中国では日本語を話せる学生が多くいたことに驚いた。中国の学生は日本の言語や文化にとても興味を示しており、日本のアニメの主題歌も歌ってくれた。また、とてもフレンドリーに話しかけてくれ、食事の最中は料理を取り分けてくれたり、それぞれの料理の説明をしてくれたり、和気あいあいとした時間を過ごした。お互いスマートフォンの翻訳アプリも活用しながら会話し、「WeChat」という日本でいうLINEのようなアプリで連絡先も交換した。その日の夜はもちろん、翌日からもしばらくメッセージのやりとりが進み、積極的に日本語を用いて会話をしてくれた。

現地の学生との交流会

### 《言語について》

どの国でも、母国語が違っても英語でならある程度コミュニケーションが取れるイメージだった。実際、大学の海外研修でヨーロッパに行った時、現地の人は当たり前に英語も話せていたと思う。しかし中国のホテルやお店では簡単な英単語が通じないところもあり、会話に困ることがしばしばあった。学生は積極的に日本語を学んでいるのに対し、年配の方が特に話せていないように感じ、時代の変遷により教育が発達したのか、それとも地域や経済面の格差によっての違いなのか理由が気になった。しかし、言葉が通じなくても優しくて温かい方々ばかりで、何度も身振り手振りを交えて伝えてくれようとし、伝わった時にはお互い笑顔になれた。

**《演奏会について》**

哈爾浜音楽院との交流演奏会では、私はプログラムの始めにソロを弾いた。初めての海外での演奏は、いい緊張感で楽しく弾けたのだが、聴衆の日本とのマナーの違いを感じた。入場してからもしばらく話し声が聴こえたり、弾こうとしている時に普通に客席を立ち歩いている人がいたり、演奏中に子供の泣き声が続いたりもした。また、ステージの転換をしてくれた音楽院の学生も舞台袖でずっと会話をしており、「演奏会」を聴く姿勢は日本の方が整っているように感じた。

演奏後、大学のロビーにて

**《視察について》**

故宮博物院や天安門、万里の長城に行くことにより、中国の歴史にも触れることができた。特に印象に残ったのは万里の長城で、いくら歩いても終わりが見えなかった。石で作られているため段差が一定でなく、場所によっては急勾配であり、歩きにくい部分が多かった。比較的歩きやすいと言われているルートを選んだのだが、予想以上の距離と段差であり、整備するのも大変だろうと思いながら歩いた。歩きやすさは天気によっても左右され、周りに建物がないので影がなく日光が直接的に降り注ぎ、雨が降ったら急な斜面だと滑って歩けないように思えた。

北京で京劇を鑑賞した際には、日本とは舞台を見る環境が全く異なり驚いた。コンサートホールのような舞台に向かって椅子が並んでいる光景を想像していたのだが、実際に座ったのは 6 人で囲むテーブル席でお茶やお菓子が置いてあった。講演中は談笑してもカメラの撮影も大丈夫だった様子を見て、日本では考えられないと思った。

**《終わりに》**

中国というと、特に治安やマナーなどにおいて良いイメージがなく、衛生面なども心配だった。行った時は天気も空気も良いタイミングであり、体調にも異変はなかったのでよかったのだが、出発前に iPhone の天気アプリで中国の天気を調べた際、日本の天気を見る時には表示されていない「空気質指標」「空気質」という項目があり、驚くと同時に日本は安全な国なのだと改めて認識した。

また中国人は冷たくて素っ気ないイメージを持っていたのだが、想像以上に温かく迎え入れてくれる人ばかりで、自分がいかに偏見を持っていたのかと反省した。迎え入れてくれた場所や人に恵まれ、中国に対して抱いていた印象が大きく変わり、多くの国々への関心が増すきっかけとなる派遣事業に参加ができたことに感謝している。

# 行　動　記　録

| 日付・気候 | 発着・滞在地 | 交通機関 | 内　　容 |
|---|---|---|---|
| 9/3 （月） | 新千歳空港<br><br>新 千 歳 空 港 →<br>北京国際空港<br>→哈爾浜 | <br><br>CA170<br>中国国際航空<br>CA1639<br>中国国際航空<br>専用車 | 11:50 新千歳空港国際線出発カウンターに集合。搭乗手続きも順調に進み、いざ北京へ。<br>定刻どおり北京に到着。北京空港でガイドより現地のほっともっとのお弁当をいただき、哈爾浜へ乗り継ぎ。<br>ハルビン太平国際空港で、黒竜江省外事弁公室 郭文博科長の出迎えを受け、NewParisHotel に移動（郭科長には哈爾浜滞在中全行程に帯同いただいた。） |
| 9/4 （火） | ハルビン | 専用車 | 阿城金上京歴史文化博物館を見学し、金王朝（1115-1234）の歴史について学んだ。<br>昼食は、哈爾浜市のメインストリートである中央大街にある「哈爾浜東方餃子王」にて、安原団長より研修の成功祈願と激励の乾杯があり、名物餃子をいただいた。<br>その後観光兼お土産を買う時間に。（大学引率の先生による大量のキクラゲ購入）<br>黒竜江省外事弁主催する宴会出席。呉永剛 朝韓処長の歓迎を受け、注がれたら飲まなければならない高度数の白酒や増えるジャージャー麺を食べる。一部完食。<br>専用車でホテルへ戻り、演奏会前日ということもあり、ちゃんと寝る。 |
| 9/5 （水） | ハルビン | 専用車 | 午前は、東北虎園を見学。檻付バスに乗って虎園を移動した。園内には約 1,000 頭の虎が飼育されているとのこと。いろんな種類の虎を間近で見れた。生きている鶏を餌として与えており、野生に近い姿を見る事ができた。<br>昼食は天順源で哈爾賓名物のラム串としゃぶしゃぶをいただく。おしゃれで盛りつけも異例なお店だった。<br>哈爾賓音楽学院に到着。学院長、その他先生方へ挨拶をし、リハーサル開始。<br>18:30 に開演。当日会場には雨の平日にもかかわらず生徒や一般市民など約 500 名の聴講を得て、成功裡に終了した。<br>演奏会終了後に、学内の食堂にて哈爾賓音楽院の学生達と交流を兼ねた食事会が催され、学生同士 SNS のアドレス交換などして友好を育んだ。<br>ホテルに戻り反省会を開く。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 9/6 （木） | 哈爾浜→<br>北京 | CA1644<br>中国国際航空<br>専用車 | 未明に北海道にて地震が発生したことを受け、全員家族とWECHAT にて安否を確認。HIECC より、以降のプログラムは通常通り実施する一方、今後情報を収集しつつ帰国に係る検討を行う旨伝達があった。<br>ホテルから出発し空港へ到着。ハルビン太平空港にて郭科長とお別れし、哈爾賓にさようならをする。<br>空港から直行で万里の長城へ向かう。数えきれないほどの階段と坂道を駆ける。みんなの膝が笑った。<br>夕飯は辛い料理がメインで久々の白米に食らいつく者がいた。みんなスプライトが大好きである。<br>宿泊先である北京建国温泉酒店到着。コンビニが近くにあるということでみな買い足しやらお酒を買いにいく。 |
| 9/7 （金） | 北京 | 専用車 | 午前中は、中国教育国際交流協会を訪問。林顕職員と合流し、李春生常務理事より歓迎を受けた。<br>中央音楽学院を訪問する。施設（図書館）見学後、呉迎ピアノ学科主任より、音楽院について説明を受けた。<br>トゥーランドットの音楽稽古を偶然聴けることになり感動しながら聴く。<br>昼食。ここでも水餃子をいただく。やはりスプライトは美味しい。<br>北京の名所、天安門を見学する。多くの区間に分かれており、かなり歩いた。建物の荘厳さを感じ歴史を感じることができた。<br>ホテルの高級レストランで夕食を摂る。スイカがとても美味しかった。<br>京劇鑑賞。歌舞伎はと全く異なる劇で、発声法や衣装の派手さ、アクロバティックな演出がとても魅力的。手喝采であった。<br>ホテルに戻りこの日は最後の夜だったのでみんなで宴会を<br>開き朝まで楽しんだ。 |
| 9/8 （土） | 北京<br>北京首都国際空港<br>→新千歳空港 | 専用車<br>CA169<br>中国国際航空 | 朝の５時にホテルから空港へ向かう。とにかく疲れていて眠かった。地震の影響もあり搭乗者が少なかった。<br>新千歳空港に無事到着し解散。某メンバーがロストバゲージしていた。<br>久々の日本食はとっても美味しかった！！！ |

公益社団法人
**北海道国際交流・協力総合センター**
**ＨＩＥＣＣ／ハイエック**
（旧 社団法人北方圏センター）

Hokkaido International Exchange and Cooperation Center
Hokkaido Government Annex West-7,North-3,Chuo-ku
Sapporo,Hokkaido,060-0003 JAPAN
PHONE:+81(11)221-7840 FAX:+81(11)221-7845

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目（道庁別館12階）
TEL:011-221-7840 FAX:011-221-7845
URL:http://www.hiecc.or.jp
E-mail:hiecc@hiecc.or.jp